

西部病院だより

いこいの森

特集

整形外科



整形外科スタッフ

ごあいさつ

今年も病院前を通る野境道路の美しい桜並木を眺めることができました。昨年の今頃は、新型コロナウイルス感染症の拡大を懸念しながら注意深く日々の診療にあたっておりましたが、1年後もその脅威と対峙し続けることは想像もしていませんでした。

4月になり多くの新しいスタッフが加わりました。また、今後の医療を担う学生実習も始まります。不慣れな点もあるかと存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、従前より当院からの情報発信ツールとして発行してまいりました「いこいの森」(平成15年創刊)と「NETWORK」(平成19年創刊)は、それぞれ患者さまと医療機関の方々を対象として長年にわたってご愛読いただきました。今般これらを統合して、当院をより知っていただけるよう、各診療科の特色や部門の紹介、皆さまへのお知らせなどを含んだ新しい広報誌として「いこいの森」をリニューアルし、今後も本誌を通して様々な情報を提供させていただきながら、より質の高い、安全・安心な医療の提供に努めてまいります。



病院長 國場 幸均



2021年、聖マリアンナ医科大学は創立50周年を迎えます。



FEATURE 整形外科のご紹介

当院では整形外科の疾患・外傷のほぼすべての領域をカバーしていますが、特に下肢の機能再建(足部・足関節、膝関節、股関節)、上肢機能再建(肩関節、肘関節、手関節)、脊椎変性疾患の治療、四肢・脊椎の外傷に力を入れています。

手術では足部・足関節手術の全般、人工関節置換術(膝関節、股関節、肩関節、足関節)、脊椎変性疾患に対する除圧・固定術、肩関節全般の手術、手の外科などが中心になります。スポーツ外傷・障害の手術(膝前十字靭帯再建、足関節外側靭帯再建、反復性肩関節脱臼の修復、軟骨損傷の修復)も積極的に行っています。

この4月から医師数は10人になり、より細やかでかつ機動力のある診療体制になりました。どうぞよろしくお願ひ致します。



原口直樹
(病院教授、副院長)

足の外科センターを開設しました

2018年に足部・足関節外科の専門医が当院に赴任後、足の疾患や外傷で当院を受診される患者さまの数とその手術件数が増加致しました。足部・足関節はその疾患・外傷の種類が多く専門性が高い分野ですが、この分野特有の創の合併症の対応や術後の荷重制限のために、これに対応した看護や装具の作製、さらには術後の退院・転院支援が必要です。足部・足関節の疾患・外傷に対する高度かつ専門的な医療を、創傷治療やリハビリテーション、装具療法など、治療の全過程で多職種による包括的な治療を提供できる診療体制を構築しています。これにより患者さまが安心して、より高度な医療が受けられることをめざします。また、リハビリテーションや、装具療法、注射などにより、手術によらない治療(保存療法)にも力を入れています。どうぞよろしくお願ひ致します。



対象疾患

- 1.慢性疾患** (変形性関節症、外反母趾、関節リウマチ、成人期扁平足、距骨壊死、麻痺性変形、モートン病、足根管症候群など)
- 2.スポーツ障害** (足関節不安定症、距骨の骨軟骨損傷、疲労骨折、アイレス腱断裂や腱障害、インピンジメント症候群など)
- 3.外傷** (足関節部骨折、ピロン骨折、踵骨骨折、リスフラン関節損傷など)

外来日

毎週水曜日あるいは
金曜日

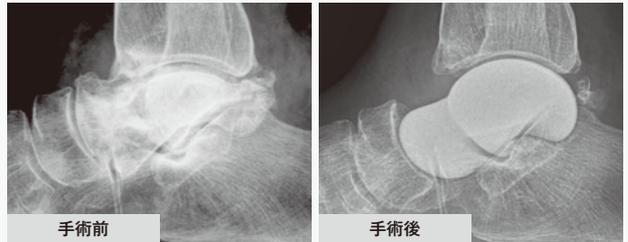
治療例

■ 変形性足関節症に対する低位脛骨切り術



脛骨の向きを変えて関節のすき間を広げ、繊維軟骨を再生させます。

■ 距骨壊死に対する人工距骨置換術



壊死した距骨を取り除き、体格に合わせて患者さまごとに作製したセラミック製人工距骨に置きかえます。

■ 距骨の骨軟骨損傷に対する骨軟骨移植



軟骨が欠けた部分に軟骨を移植したところ(矢印)

■ 外反母趾の矯正手術



足の外科センター担当医

原口直樹 (病院教授、副院長)

1991年 山形大学医学部卒業
1991年 東京警察病院 レジデント
1992年 公立昭和病院 整形外科および
救急医学科研修医
1993年 警察病院復職
2003年 東京警察病院 整形外科医長

2003年-2005年 米国 Johns Hopkins大学医学部整形外科
米国 Mercy Medical Center フェロー
2010年 医学博士取得
2014年 東京警察病院 整形外科 部長
2018年 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 病院教授
2020年 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 副院長

有本竜也 (助教)

2013年 日本大学医学部卒業
2013年 聖路加国際病院 初期研修
2015年 聖路加国際病院 整形外科 専攻医
2017年 奈良県立医科大学附属病院および東京警察病院 国内留学
2018年 聖路加国際病院 チーフレジデント
2019年 聖路加国際病院 フェロー
2021年 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院 医員

人工関節の手術支援ロボット「ROSA」 が導入されました。

人工関節手術では、傷んだ関節と骨を正確な形で取り除き、そこへ人工関節を固定しますが、人工関節の耐久性（手術後にゆるみや摩耗を起こさずに、どれだけでもつか）は、この人工関節を固定する骨の切り方に大きくかかっています。

いままでの人工関節手術では、おもに医師が経験や手術中の判断で手術をおこなっていましたが、ロボットを使うことにより、その患者さまに最も適切な位置に正確に人工関節を設置することができます。

人工膝関節の手術では、軟骨がすり減り変形した膝関節の表面を切除して、その切除した表面に金属の関節を固定し、金属と金属のあいだにポリエチレンを差し込みます。このためこの傷んだ関節の切除のしかたが不正確で、斜めになったり、中心からずれたりしますと、設置する人工関節が傾いたり、ずれた状態で固定されてしまいます。人工関節が不正確に設置された場合、体重が人工関節全体に均等にかからずに一部に集中して、ポリエチレンが早くすり減ってしまったり、人工関節

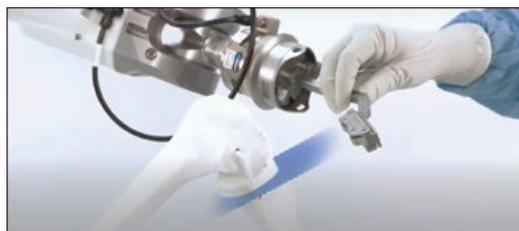
そのものが緩む原因になりえます。このため、人工関節の耐久性は、この傷んだ関節の切除をいかに正確に行うかにかかっています。

手術支援ロボットは、患者さまの画像データと手術中の実際の骨の形のデータから、その患者さまにとってもっとも理想的な位置に正確に人工関節を設置することを可能にします。また関節を置換した状態で関節の安定性やバランスを数値化し、手術中に微調整が可能になります。

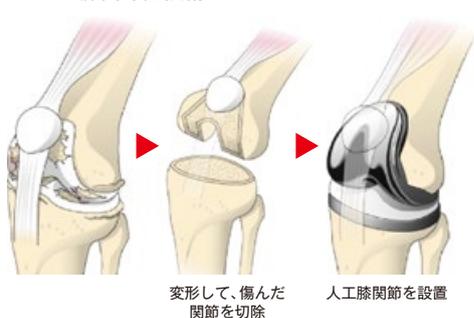
■ 切除した関節のバランスを手術中に評価



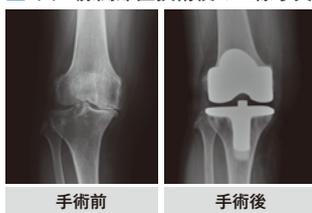
■ 傷んだ関節を切除する方向を人工関節が正確に決定



■ 人工膝関節置換術



■ 人工膝関節置換術後のX線写真



整形外科スタッフ

氏名	役職	出身大学	専門領域
原口 直樹	副院長 病院教授	山形大学医学部卒 (1991年)	足の外科、下肢機能再建
武居 功	主任医長	山形大学医学部卒 (1996年)	肩関節外科、上肢機能再建
梅原 亮	医長	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2008年)	脊椎外科
小山 亮太	医長	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2009年)	手外科、上肢機能再建
浅野 孝太	医長	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2009年)	脊椎外科、下肢機能再建
有本 竜也	医長	日本大学医学部卒 (2013年)	足の外科、下肢機能再建
加納 洋輔	医員	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2016年)	整形外科一般
見上 豪	医員	金沢医科大学医学部卒 (2018年)	整形外科一般
木村 聡美	医員	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2019年)	整形外科一般
福本 岳	医員	聖マリアンナ医科大学医学部卒 (2019年)	整形外科一般

部門紹介

看護部

その人らしさをつなぐ シームレスな看護の実践



看護部には現在、常勤、非常勤者が合わせて、606名の職員が在籍しています。この人数は全職員の6割に当たり、病棟、外来、検査部門等、21部署に配属されています。各部署の中で一人前になるまでには、概ね3年は必要で、そこから個々のキャリアデザインに基づき、同部署で経験を重ねる人、違う領域に異動する人、専門、認定看護師といった資格を取得する人もいます。西部病院には、専門看護師2名、認定看護師20名が在職し、各々の専門分野で活動しています。高齢患者さまが増加し、在院日数が短縮する中、医療チームの一員として、医師、薬剤師等、多職種と協力、連携し、急性期の治療の先にある患者さまの生活を考えて、「その人らしさ」を大切にしたい安全で安心な看護を提供できるよう24時間体制で取り組んでいます。



院内施設のご紹介

医療用品・介護用品ショップ ハートイン



地下1階にある中庭を見渡すことができる明るい雰囲気のお店です。主に医療材料や福祉用具を取り扱っております。皆さまのご来店をお待ちしております。

■ 営業日・営業時間

平日：9時～18時

土曜日：9時～15時

定休日：日曜日、祝日、第1・3土曜日

■ お知らせ

毎月第4月曜日は特売日です。

本を除く全商品を2割引きで販売しております。
(第4月曜日が祝日の場合は別日になります。)

取扱商品・サービス

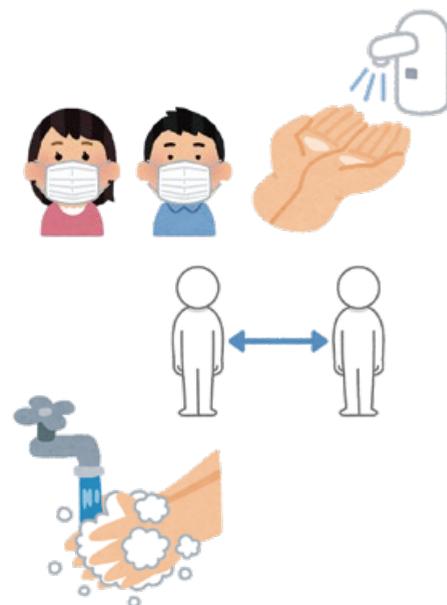
- ・医材料 入院や治療に必要な物品・雑貨など
- ・福祉用具 杖や靴など
- ・化粧品 マリアンナ化粧品や低刺激の商品
- ・パン 火曜日～金曜日は、旭区白根にある人気のパン屋「越路」より焼き立てパンが届きます。11時30分頃より店頭で販売しています。
- ・コピー・FAX(有料) 処方箋のFAXもできます。

病院からのお知らせ

ご来院の皆さまへ（お願い）

当院では、院内感染を防ぐとともに皆さまに安心して受診していただくため、感染防止対策として患者さま、付き添いの方を含む全ての皆さまへ次の事項についてご協力をお願いしております。

- 病院玄関でのアルコール消毒液による手指衛生・検温・問診
- マスクの着用
- 人と人との間に距離をとる（ソーシャルディスタンス）
- 手洗いの励行と手指衛生



ご支援への御礼

当院における新型コロナウイルス感染症対応などに対して、多くの個人、企業、団体の皆さまからマスクなどの医療物資のほか、食品や飲料、経済的なご支援、励ましや御礼のメッセージをいただいております。皆さまからの温かいご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。ご支援いただきました物資等は、新型コロナウイルス感染症およびその対策を講じながら継続している診療において大切に使用させていただきます。引き続き、地域中核病院として皆さまのご期待に沿えるよう努めてまいります。

新しい食生活様式—中食

栄養部

コロナ禍で外食を控えていることや家で過ごす時間が多くなっていることで中食の利用が増加しています。中食とは、お弁当や惣菜などを購入、外食店のデリバリーなどを利用したものを食べる形態の食事のことをいい、単身者・高齢者の世帯のみでなく、全世帯で利用者数が増加傾向にあります。

中食のメリットは、必要な分だけ少量ずつでも購入が可能で種類も豊富、また、家事の負担を軽減できることから簡便な食事としての利用できます。ただしデメリットとして、コロケ・鶏のから揚げなどの揚げ物や、おにぎり・サンドイッチ・寿司など主食中心になり、脂質や炭水化物（糖質）の摂取量の増加、塩分の過剰摂取につながりやすいことが挙げられます。

大豆製品（納豆、豆腐等）、野菜、果物、乳製品（牛乳や乳製品）など、中食で不足しやすい食材をうまく献立の中に補いながら、新しい食生活様式のひとつとして上手に利用していきましょう。



患者支援センターの設立と活動

患者支援センター センター長 方波見卓行

2020年4月に開設されました患者支援センターについてご紹介致します。本センターの業務を端的に申し上げますと、これまでの総合相談部の機能（インフォメーション、地域連携、ソーシャルワーク、ホームケア、受診・患者相談、入退院支援など）に入退院管理と検査説明が付加されたものと言えます。

開設後は医療連携の一層の充実を図るべく、診療科ホームページを改訂中で、今後動画配信も検討しております。市民公開講座をWEB開催し、住民の関心がCOVID以外の疾患にも向くよう努めました。さらに、以前より患者さまからご要望がありました日曜日入院を本格的に稼働致しました。

地域の医療機関の先生方が対応困難と判断した患者さまを拝診することは当院の大きな使命の一つで、地域の期待もこの点にあると拝察します。今後とも一層のご指導を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

Web市民公開講座のご案内

第1回	災害時に在宅療養者をどのように支えるか ～家族ができること～ ～周囲の人ができること～	救命救急センター センター長 榎井 良裕 医師
第2回	あなたの肝臓大丈夫ですか？ お酒を飲む前に、そして、お酒を飲まない人にも 知っておいてほしいこと	消化器・肝臓内科 部長 松本 伸行 医師
第3回	健康寿命を延ばす運動	近藤 千雅 理学療法士
第4回	えんぎでもないことをもっともっと身近に ～人生会議でこれからを考える～	岡本 延枝 看護師

市民公開講座を当院ホームページで公開中です。ぜひご視聴ください。



聖マリ西部 Web版市民公開講座 **検索**



■ 受付時間

平日、第2・第4・第5土曜日
午前8時30分～午前11時 ※診療科によって一部異なります
(正面玄関の開扉時間は午前8時です)

■ 休診日

日曜日、国民の祝日、土曜日(第1・第3)、
10月の第2土曜日(開学記念日の休日)、
年末年始(12月29日～1月3日)



聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
St. Marianna University Yokohama Seibu Hospital

地域医療支援病院

日本医療機能評価機構認定病院

JCEP(卒後臨床研修評価機構)認定病院



〒241-0811 神奈川県横浜市旭区矢指町1197-1
電話 045-366-1111(代表)
FAX 045-366-1172
URL <https://seibu.marianna-u.ac.jp/>

